

# 令和6年度 高学年運動クラブ(月)(金) 年間カリキュラム

## 【ねらい】

・自主性の向上

※チームリーダー…5、6年生に、“高学年らしい”取り組みの姿勢をみにつけてもらえるよう、役割を担ってもらう。

・挑戦心、やり遂げる力の向上

・対人スキルの向上(挨拶・傾聴姿勢・場面や年齢に応じた言葉遣い)

・何事にも積極的に取り組む力

	種目	目的・ねらい	●健康・生活 ●運動・感覚 ●認知・行動 ●言語・コミュニケーション ●人間関係・社会性	※予想されること、◎注意点 (前年度の課題と今年度の改善策)
4月 5月	・ドッジボール ・ドッジビー	・活動を通してルールの理解や他児との関わり方を学ぶ。 ・活動のリズムを作る ・楽しく活動に参加する	・ボールの取り方、投げ方を覚え、向上させる。 ・集団スポーツをする上でのルールを理解する。 ・他児に対しての接し方や言葉遣いを学ぶ。	・投げる、取るが苦手な児童が多い。(個々に運動の力の差がある。)→始まりに苦手な児に対して個別で練習を入れる。 ・新しい環境に慣れない。(新規児童、木曜日からの移行の児)→高学年の運動クラブに少しずつ慣れるよう声かけ等を行う。
6月 7月 8月	・バレーボール ※長期時制開始後はリクエスト競技	・ルールを理解し、他児と協力して取り組む楽しさを学ぶ。 ・空間認知能力の向上	・ボールの受け方を覚え、バレーボールに慣れる。 ・空中にあるボールの空間認知能力の向上。	・空間認知能力が必要な為、苦手意識がある児童が多い。→難しいスポーツであることを話し、他児と協力して活動するよう支援する。
9月	・キックベース	・ルールを理解し、他児と協力して取り組む楽しさを学ぶ。 ・空間認知能力の向上	・ボールの蹴り方を覚え、サッカーに慣れていく。 ・空間認知能力の向上 ・他児に対しての接し方や言葉遣いを学ぶ。 ・話し合いの大切さを学ぶ	・正しいボールの蹴り方が分からず、怪我をしてしまう可能性があるため、視覚的に分かりやすく理解できるよう支援する。 ・バレーボールで学んだ空間認知能力を生かせるよう促す。
10月 11月 12月	・サッカー ※長期時制開始後はリクエスト競技	・他児と協力し、勝つ楽しさを学ぶ。 ・競技に対して一生懸命取り組む力をつける	・他児や職員とのコミュニケーション能力の向上。 ・止める、蹴る、パスを出す、シュートするといった一連の動作の向上。 ・話し合いの大切さを学ぶ。	・やる気のある児童、ない児童様々の為、全員がやる気になるよう支援する。→一人一人に役割を与え、その目標を達成できるよう支援する。 ・接触競技の為、周りをよく見て活動するよう支援する。 ・話し合いの中で児童同士で役割を決め、話し合いが円滑に進むよう支援する。
1月 2月	・バスケットボール	・ルールを守る大変さ、厳しさを学ぶ ・できない事も諦めずに取り組む ・他児と協力し、勝つ楽しさを学ぶ	・ルールを理解し、守る大変さを学ぶ。 ・他児や職員とのコミュニケーション能力の向上。 ・パスを出す、ドリブルをする、シュートを打つといった一連の動作の向上。 ・空間認知能力の向上	・周りが見えず接触する場面が多く見られる。→怪我につながる事を説明し、周りをよく見て活動するよう支援する。
3月	・まとめ	・児童同士で話し合い、競技を決める ・他児と協力し、勝つ楽しさを学ぶ	・ルールを理解し、他児と協力して取り組む力の向上。 ・他児や職員とのコミュニケーション能力の向上。	・職員が手本となり、積極的に取り組む。 ・次年度最上級生になる児童が率先して取り組んでいけるよう支援する。

# 令和6年度 低学年運動クラブ(火・木) 年間カリキュラム

## 【ねらい】

- ・運動機能面の向上
- ・対人スキルの向上  
(挨拶、傾聴姿勢、場面や年齢に応じた言葉遣い)
- ・自己発信力の向上

	種目	目的・ねらい	●健康・生活 ●運動・感覚 ●認知・行動 ●言語・コミュニケーション ●人間関係・社会性	※予想されること、◎注意点 (前年度の課題と今年度の改善策)
4月 5月 6月	・集団行動 ・サーキット ・リレー ・ボールレクリエーション	・運動クラブの参加にあたっての心構え、基本動作を身に着ける ・運動クラブでの流れに慣れる ・他児との関わり方を学ぶ	・運動クラブの流れを覚える ・挨拶、傾聴姿勢を学ぶ ・他児との関わり方を学ぶ ・他児や職員に対しての言葉遣いを学ぶ (コミュニケーション能力の向上) ・空間認知機能の向上	・運動クラブ初利用の児童に対しての支援 (新一年生、新規児童) →視覚支援にて運動クラブの流れを説明 →職員を個別につけ対応 ・他児や名前が分からない →1か月名札をつけて覚えてもらう (児童・職員)
7月 8月 9月 10月	・転がしドッジボール ・ドッジボール ・スポーツ大会にむけて	・ボールに慣れる ・ルールを理解し、実践できる ・勝つ楽しさ、負ける悔しさを覚える	・投げる、捕る、避ける動作を学び実践する ・他児や職員とのコミュニケーション能力の向上 ・空間認知機能の向上	・ボールの取り合いで揉める →最初は職員が介入し、順番等決めて投げる。少しずつ慣れてきたら児童同士で話し合い解決するよう支援する。 ・ルール理解が乏しい →個別で職員が対応
11月 12月	・サッカー	・ボールに慣れる ・ルールを理解し、実践できる ・勝つ楽しさ、負ける悔しさを覚える ・競技に対して一生懸命に取り組む力をつける	・他児や職員とのコミュニケーション能力の向上 ・蹴る、止める、パスを出す、シュートをするとといった一連の動作を学び、向上。 ・空間認知機能の向上	・怪我につながる為、周りをよく見て活動するよう支援する。 →始まる前に必ず説明し、難しい児童には個別で対応。 ・得点が入る入らないで揉める。 →試合前に必ずルールを説明。試合中も職員が介入する。視覚支援を使用する
1月 2月	・持久走 ・縄跳び(大縄)	・持久力の向上 ・持久走の楽しさを知る ・縄跳びの楽しさを知る ・きつても最後まで諦めない ・リズム感を身に着ける	・持久力の向上 ・忍耐力 ・リズム感 ・協調性向上	・きついからやらないという場面が見られる →まずは職員がお手本となり、一緒に走り最後まで取り組む姿を見せる ・縄跳びに苦手意識がある →まずは通り抜けから練習し、自己肯定感を高め、レベルアップを図る
3月	・まとめ	・ルールを理解し、実践できる ・他児と協力し、勝つ楽しさ、負ける悔しさを学ぶ	・他児や職員とのコミュニケーション能力の向上 ・空間認知機能の向上	・職員が手本となり、積極的に取り組む。 ・子どもたちが継続して参加できるように視覚支援を作成する。

# 令和6年度 小集団運動クラブ(月) 年間カリキュラム

## 【ねらい】

- ・運動に対しての苦手克服
- ・活動にメリハリをつけ、集団行動に参加できる力を身に着ける。
- ・個別に対応し、最終的には集団参加できるよう着地点を模索する。
- ・自己肯定感の向上
- ・対人関係、情緒安定性の向上

	種目	目的・ねらい	●健康・生活 ●運動・感覚 ●認知・行動 ●言語・コミュニケーション ●人間関係・社会性	※予想されること、◎注意点 (前年度の課題と今年度の改善策)
4月 5月	・体力測定 ・ボール投げ ・体幹トレーニング	・自分の運動能力を知る ・苦手を認め、改善できるよう努力する ・ボールの飛距離を伸ばす ・療育の流れを身に着ける ・実践的なボールの投げ方を学ぶ	・活動の流れの取得 ・活動に対しての参加意欲 ・苦手を認める力 ・筋力アップ ・実践で使える投げ方	・できない事から逃げてしまう →まずはできる事から始め、自己肯定感を高める。そこから少しずつレベルアップを図る。 ・理解が乏しい →職員がお手本を見せる。視覚支援を使用する。
6月 7月	・縄跳び ・鉄棒	・今できる技をレベルアップさせる ・苦手を改善できるよう努力する	・筋力アップ ・レベルアップした技の取得 ・自己肯定感の向上 ・協調性の向上	・苦手意識がある →まずはできる技のスキルアップを図り、自己肯定感を高め、少しずつ色々な技に挑戦する ・理解の乏しさ→視覚支援使用
8月 9月	・跳び箱 ・マット	・苦手意識を少しでもなくす ・できないことにも挑戦する。 ・今できる技よりもレベルアップを行う	・筋力アップ ・レベルアップした技の取得 ・自己肯定感の向上	・苦手意識がある →まずはできる技のスキルアップを図り、自己肯定感を高め、少しずつ色々な技に挑戦する ・理解の乏しさ →職員のお手本や視覚支援使用
10月 11月	・体力測定 ・ボール投げ	・自分の運動能力を知る ・ボールの飛距離を伸ばす	・投げる、捕る、避けるの基本的動作の向上 ・自己肯定感の向上 ・実践で使える投げ方の習得	・頑張りすぎて故障してしまう →自分で少しずつ力をコントロールできるよう支援する。力を抜いて投げる方法を指導する
12月	・持久走	・走り方、体の動かし方を覚える ・諦めずに最後まで走る ・走る楽しさを知る	・運動機能の向上 ・忍耐力 ・心肺機能向上 ・自己肯定感の向上	・きついからやらないという場面が見られる →まずは職員がお手本となり、一緒に走り最後まで取り組む姿を見せる
1月	・縄跳び ・鉄棒	・技のレベルアップ ・諦めずに最後まで取り組む	・筋力アップ ・運動機能の向上 ・自己肯定感の向上 ・反射能力、自己防衛能力の向上	・だらけてしまう →大縄やダブルタッチなど日頃練習しない技を取り入れ飽きさせないよう支援する
2月	・跳び箱 ・マット	・技のレベルアップ ・できないことにも挑戦し、最後まで取り組む	・筋力アップ ・運動機能の向上 ・自己肯定感の向上	・苦手意識がある →今できている技を褒め自己肯定感を高める。その後少しずつ別の技に挑戦させる
3月	・体力測定 ・まとめ	・自分の運動能力を知る ・1年間練習してきたものを発揮する ・実践練習	・運動機能の向上 ・自己肯定感の向上	